

各区障害者自立支援協議会の取組みについて

青葉区障害者自立支援協議会の取組み

○過年度からの課題

- ・①【重点事項】重点対象者の相談支援体制整備，②世帯支援(8050 問題等)に伴う支援者連携，③転出入が多くても支援の継続性が保たれること，④児童，障害，高齢でのサービス移行期の支援，⑤地域とのつながりの希薄化による障害者の孤立等が挙げられる。
- ・上記課題①②③④の解決に向けて，各会議体の進捗状況や新たな課題等を運営会議で共有し，区自立協内で共通認識をもって各会議体の活動を展開し連動させる必要がある。また，障害に関する相談支援体制整備の促進には，障害以外の他分野や地域を含めたネットワークを形成し，障害者を地域で支える体制づくりが必要。特に，他分野も含めたネットワークづくりにおいて，実務者ネットワーク会議や相談支援事業所等連絡会の参加者の固定化，参加率の停滞が課題。各事務局員の顔の見える関係を通したお声がけ，メールの活用，活動報告を合わせた周知等を検討し，区自立協内で協働した周知を行う必要がある。
- ・上記課題⑤について，事業の地域展開を通して地域の実情を把握し，障害以外のフォーマル/インフォーマルな資源や他分野とのネットワークを活かし，障害者の地域とつながる場を検討する必要がある。

○今年度の取組み

会議	回数	主な内容・議題等
(1) 全体協議会	1 回	青葉区高齢者障害者地域会議として，区内の障害及び高齢分野に共通する課題について共有し，精神障害当事者を含む各委員から見えている現状や課題についてご意見を頂き，今後の取組みにつながる手がかりや共通する要素などについて整理した。次年度，2 月頃に開催予定。
(2) 実務者ネットワーク会議	2 回	サポネットあおばのつどいとして，第 1 回は「顔の見えるつながりをつくろう！広げよう！」をテーマに開催。障害，児童，高齢分野の支援者に周知し 60 名が参加。第 2 回は 60 名が参加。重点対象者への支援のあり方についてイメージが持てるようになることを目標に，地域と連携して支援している好事例を共有し，グループワークでの意見交換を実施。参加者の声も踏まえ，次年度も 2 回程度開催予定。
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	11 回	支援者同士のネットワーク形成，相談支援の強化を目的に，各回で話題提供，重点対象者ケースレビュー，事例検討と内容をローテーションさせて実施。話題提供はコロナ 5 類後の相談支援について，基幹相談支援センターについて等，相談支援事業所の関心が高いテーマや実務に取り入れやすいテーマを取り上げた。事例検討は GSV のルールを通して指定特定相談支援事業所のケースを中心に実施。障害と高齢の連携強化を目指し，区内地域包括支援センターへの周知を継続した。指定特定を支える体制の充実に向けた取組の計画書に合わせ，次年度も月 1 回程度開催予定。
(4) プロジェクトチーム	12 回	・地域展開チーム（葉山） 令和 5～7 年の 3 年計画で実施中。高齢、児童、障害分野の支援者を対象とした「荒巻/通町地区～支援者同士の情報交換会～」を 11 月、1 月に開催し，14 機関が参加。実務者ネットワーク会議の GW を地域毎にする等連動。他，地域の支援者との連携強化やニーズ抽出に向けて，地区民児協等の地域の会議体に出席し，チラシを用いて区自立協や障害理解，相談先の普及啓発を実施した。 ・地域展開チーム（宮総） 圏域内の全指定特定相談支援事業所へヒアリングを実施。また，区自立協と他分野の支援機関や地域とのネットワーク強化を目指し，委託相談支援事業所と共に各地区の包括圏域会議等に出席。南吉成包括圏域会議にてふらっと青葉よりパンフレット「考えてみよう！誰もが暮らしやすいまち」を用いて 4 障害について説明し，地域の障害理解を促した。ヒアリング結果を評価し，次年度の活動を検討する。
(5) 運営会議	12 回	・各会議体の進捗状況や市自立協の報告内容を共有し，区自立協の活動方針を検討。 ・障害に関する課題や課題解決に向けた区自立協の活動，各会議体との関連性について「課題整理表、各会議体の活動との関連図」を作成し見える化し，共有した。次年度も地域課題と取り組みの連動性を促す場として月 1 回開催予定。 ・相談支援事業所等連絡会や実務者ネットワーク会議の参加者の固定化や参加率の停滞の改善，地域とのネットワーク形成に向けて，通常業務に合わせて事業所や地域の支援者へチラシを用いて区自立協を周知し，顔の見える関係づくりを進めた。「ネットワークづくりの見える化/軌跡シート」を作成し，区自立協と支援者や地域とのネットワークに見える化した。R7 年度以降も継続し実施に活用する。

宮城野区障害者自立支援協議会の取組み

○過年度からの課題

- ・地域課題と支援上の課題：

8050 問題，障害者の高齢化(介護保険サービスへの移行等)，チーム支援(地域や他分野との連携)，サービスや社会資源とのマッチングの難しさなどの課題について，どの方法で解決に向けた取り組みを実施していくのか，検討が必要。また，ライフステージやライフイベント，制度の変わり目で課題が表面化することが多く，それぞれのつなぎ目で支援が必要である。そのため今年度からテーマ別に分かれて検討していく。

○今年度の取り組み

会議	回数	主な内容・議題等
(1) 全体協議会	1 回	・区地域ケア会議と合同開催。今年度委員改選(任期は R6 年度～R8 年度)。 ・R6 年度～R8 年度(3 か年)テーマ：「地域で共に暮らす ～みんなで織りなす安心のまち～」とし、その 1 年目となる R6 年度テーマを「地域とのつながりを持ち続けるために、私たちができること」と設定。 ・令和 7 年 1 月 29 日開催。第一層・二層生活支援コーディネーター及び自立協より活動報告。地域とのつながりの重要性に着目し、「つながり」を保つためにそれぞれの立場においてできることについてグループワークを行った。
(2) 実務者ネットワーク会議	5 回	【第 1 回実務者ネットワーク会議全体会】：6 月 27 日開催 報告「今年度の宮城野区障害者自立支援協議会の活動について」 グループワーク「ライフステージ～つなぎ目に着目して～」 ⇒全体会で抽出された課題から，テーマ別会議の 3 つのテーマを選定。 【テーマ別会議】 ・「放課後等デイサービス事業所のネットワークづくり」：11 月 8 日開催 ・「障害から高齢制度への移行支援」：11 月 26 日開催 ・「触法ケースの地域への移行支援」：11 月 27 日開催 【第 2 回実務者ネットワーク会議全体会】：12 月 19 日開催 上記の各テーマ別会議について報告。それぞれの立場から考えられる自立協への参加や、取組に対する希望について GW を行った。
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	10 回	個別支援の質の維持向上を図ることを目的に事例検討を行った。また、個別事例・ケースレビューから相談傾向の共有と地域課題の抽出に向けた作業を 2、3 か月に 1 回実施。地域課題については短期間で判断するのではなく、一定程度の期間の相談傾向と他会議にて挙がった声を踏まえて整理をしていくこととした。
(4) プロジェクトチーム	0 回	今年度は活動なし。
(5) 運営会議	12 回	・今年度より「ライフステージ～支援のつなぎ目に着目して～」を活動のテーマとして掲げ、一貫性・各会議の連動性を持った活動を意識。各会議体の進捗管理、地域課題等の整理、各事業所の地域活動の報告、市自立協に関連することの検討、自立協全体の運営方針の決定を行った。今年度より主任相談支援専門員も参加。 ・5 月、1 月には各機関の所属長を招き、管理者向け報告会を実施。

若林区障害者自立支援協議会の取組み

○過年度からの課題

- ・ GSV の実践等を通じた、支援者の技術の習得・向上。
- ・ より多くの相談支援事業所が参加・相談しやすい場とし、より連携強化すること。
- ・ 高齢分野との連携による、見守り体制や支援体制の整備。
(沿岸部・田園地帯を中心に、8050 問題が地域課題としてあがっている)

○今年度の取組み

会議	回数	主な内容・議題等
(1) 全体協議会	1 回	R3 年度より 8050 問題について、継続的に協議。8050 問題とは何かという学びや、高齢・障害それぞれの相談窓口の周知を通して、地域の見守り体制を作っていく事を目指してきた。今年度はまとめの年として、仙台市のひきこもりニーズ調査の結果や、仙台市で行っているひきこもり相談窓口の共有、また連坊地区において多機関連携で実施している相談窓口の取組み、包括と連合町内会合同での 8050 勉強会や町内会での周知を目指した活動など、地域で広がる取組みを報告、共有した。 次年度は各委員の地域での様々な取組みを共有しあう内容を検討している。
(2) 実務者ネットワーク会議	2 回	第 1 回目は新任期職員を対象者に実施して事業所紹介やグループワークを行い、事業所間の連携促進、新任者支援を目指した。 第 2 回目は R7 年 2 月 26 日実施。広くネットワークを構築できるようワールドカフェ形式のグループワークを企画。開催時間を午前中に設定し、放課後等デイサービスなど学齢期の支援者も参加できるようにした。
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	10 回	新任者・異動者に向けた若林区自立協の取組み紹介、若林障害者福祉センターと合同の研修会などを実施。計画相談の報酬改定や計画作成時の意思決定支援についてなど、指定特定相談支援事業所の業務に関連する内容の企画を工夫している。 このほか、精神科医療コーディネーターや福祉葬など地域の社会資源を知る内容の企画や、また地域包括との合同連絡会を実施して、サービスの 65 歳移行期に関する問題を取り上げ、障害・高齢分野の連携強化を目指している。
(4) プロジェクトチーム	8 回	【GA っ TSU プロジェクト】“学校の教員と福祉の支援者が相談し合える関係づくりを促進していく”ことを目標に掲げ、学齢から成人期への移行期支援として令和 4 年度から活動始動。今年度は学校と繋がり円滑な情報共有を促すためのツールとして教員、保護者、支援者等に役立つ福祉事業所マップ・本人の取扱説明書を併せた冊子が完成。区内の障害福祉サービス事業所に冊子を配布し、若林区障害高齢課窓口案内チラシを設置している。プロジェクトチームとしての活動は今年度で終了とするが、冊子の更新・周知活動は若林区自立協で今後も継続して行っていく予定。 【区民祭り】10 月 20 日(日)の「若林区民ふるさとまつり」において、若林区自立協についてのパネル展示、パラリンピックに関するクイズ、ボッチャの体験、福祉用具の展示などを通して、障害に関する普及啓発を行い、多くの来訪者があった。
(5) 運営会議	12 回	上記各種会議についての運営、進捗状況等の報告と共有。また今年度より、各支援機関における個別の課題を集約し、若林区の地域課題として抽出していく試みを行っている。5 月には、地域包括支援センターとの合同顔合わせ会を行い、障害・高齢分野の顔の見える関係づくりを行った。

太白区障害者自立支援協議会の取組み

○過年度からの課題

- ・当事者とともに取り組みを進めているが、「本人や地域を含めた話し合いの場（個別ケア会議）を推進していく」という目標達成に向けて、引き続き取り組む必要がある。
- ・買い物課題等に焦点を当てて整理や解決のための取り組みを続けているが、今後もさらに地域課題を整理したり、解決に向けた取り組みを深めていく必要がある。

○今年度の取り組み

会議	回数	主な内容・議題等
(1) 全体協議会	1 回	・ R6.2.17 開催。区の地域ケア会議と合同開催。 ・ 障害者自立支援協議会としては、買い物プロジェクトの進捗について報告。今後の展開について意見をいただく。障害と高齢で共通する話題も上がった。
(2) 実務者ネットワーク会議	11 回	・ なごやかネット（6 圏域）6 回、ふれあいネット（6 圏域）4 回：地域資源、地域課題について共有。両会議とも、障害分野に限らない地域の支援者の顔が見えるネットワーク強化の場となっている。 ・ 全体 1 回：R6.12.5 開催。災害時の合理的配慮について、身体障害の当事者と精神・知的障害の支援者にオブザーバーとして協力いただいた。
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	12 回	・ ケースレビュー（委託相談支援事業所、専門機関等）8 回：困難事例等を通じた意見交換の場。個別支援から共通する課題を見出せるよう試行錯誤中。 ・ 情報交換会（委託相談支援事業所、指定特定相談支援事業所等）4 回：相談支援全体のスキルアップを図るための研修会。テーマは指定特定相談支援事業所の声を聞き、委託相談支援事業所が設定。（今年度は日中サービス支援型グループホーム、訪問看護、生活保護について等。）
(4) プロジェクトチーム	12 回	① 買い物課題解決プロジェクト：当事者からの声を集めるためインタビューシートを作成した。身体障害、知的障害等ある方や児童(放課後デイサービス)、高齢者に聞き取りを行い、全領域における共通点や差異点を見出した。今後の活用について検討を継続する。
	2 回	② 「まるっとつながたいはく」改訂プロジェクト：障害福祉サービスから介護保険へのスムーズな移行を目指し、令和 2 年 3 月に作成した支援者向けパンフレットの改訂と再活用の検討。太白区障害高齢支援連携事業*実施中の圏域においてサービス移行に係る情報共有等、課題意識が表出されたことを受け、区全体で取り組むためプロジェクトとして今年度立ち上げた。改訂を行い、区内の事業所へ共有し、障害と高齢の事業所のネットワークづくりの場で活用した。 ※太白区障害高齢支援連携事業：障害者・高齢者を問わず地域で生活する上での様々な困りごとに包括的に対応できる体制づくりに取り組む区の独自事業
(5) 運営会議	14 回	各会議体の進捗確認。(12 回定例, 2 回臨時)

泉区障害者自立支援協議会の取組み

○過年度からの課題

- ・全体会議：障害分野・高齢分野の下部会議体及び上部会議体である仙台市との連動性が課題。
- ・障害者相談支援事業所等連絡会議：今後の展開について。参加事業所が固定化している。

○今年度の取組み

会議	回数	主な内容・議題等
(1) 全体協議会	1回	・地域ケア会議、自立協の各会議体の取り組み報告し、過年度から示されていた「見守り」「本人から発信しやすい体制作り」をキーワードとして、具体的にどんな活動ができたらいいか、あったらいいのかを幅広く検討した。委員の改選もあったが、出席率も高く、積極的な意見交換がなされ、来年度のキーワードとして「住民も支援機関も平らに関わり合える日常のつながり」と整理された。
(2) 実務者ネットワーク会議	6回	泉区では、「通称：よめごと会議」として実施。多様な事業所同士のネットワーク形成と、今年度は様々なことを「知ろう！」をテーマとして、一連の会議を実施した。具体的には以下。各回で、40～50名前後の参加者がおり、ネットワークの構築には一定の効果があるものとする。 ・顔合わせによる、幅広い事業所とのつながり作り ・大名刺交換会にて、事業所の特徴等も知り合う ・専門機関を知る（アーチル・はあとぽーと） ・当事者からの話を聞く（連絡会との合同企画） ・みんなで作るよめごと会議～企画会議～ ・おもかるミーティング
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	7回	相談支援事業所のスキルアップと、地域課題の抽出等を目的として、一連の会議を実施した。具体的には以下。各回 20～30名前後の参加者がおり、相談支援事業所ならではの情報共有や学びの場となっていた。 ・大顔合わせ大会 ・報酬改定について学ぶ ・全体会と各会議体の連動性について考える ・当事者からの話を聞く（連絡会との合同企画） ・インフォーマルな見守りについて考える ・計画相談の中身を伝え合う ・今年度のがんばり発表大会
(4) プロジェクトチーム	0回	今年度、活動なし
(5) 運営会議	12回	委託相談支援事業所3か所、泉区障害者福祉センター、当課にて運営。 ・自立協全体の運営・調整 ・各会議体の実施内容の検討 ・各会議体の実施報告、振り返り ・ひなたぼっことの協働レビュー ・地域情報の共有